

# 生きつづける横田克巳さんの“ヨコタ語”

参加型システム研究所客員研究員 社会的連帯経済を推進する会 丸山 茂樹

2023年7月22日に横田克巳さんが帰らぬ人となった。9月23日には新横浜プリンスホテルで数百人の人々が集い「偲ぶ会」が行われ、思い出や功績が語られた。私にも話す機会が与えられたのであるが、思いは胸に溢れるものの言葉にならず詰まってしまった。

1960年代の初め、互いに20才代の青年時代からの友ゆえに尽きせぬ想いがある。彼が神奈川の地で創造した社会運動は神奈川のみならず日本と世界へ大きく貢献した。語られ書かれたものをはるかに凌いでいると信じている。しかし詳しい事は別の機会に譲り、ここでは彼独特の語り口である“ヨコタ語”について書くことにしたい。

その一つが「常識・非常識・良識」だ。常識をひっくり返して非常識を実行する。それは初め嫌われ疑われるが、やがて実践される中で新しい名・姿・形が“良識”と評価されるようになるだろう……というのである。イタリアの思想家、アントニオ・グラムシの「知的・モラル的改革」（支配者たちは強制権力によってのみ権力を維持しているのではない。知的・モラル的指導力によって人々の同意＜常識＞を組織している。この同意＜常識＞を覆すことははじめは非常識に見える。“非常識”と思われるいた新しく創造された運動、組織、知・モラルは、やがては人々に“良識”として了解されて共有される）。「ヨコタ語」は「グラムシ語」を噛み砕き咀嚼して血肉にして言葉として「吐き出された」と私は感じている。

グラムシの『獄中ノート』には「創造することなしに破壊することはできない」という短文があり、ここでグラムシは「破壊することは創造するのとまったく同じくらい難しい。物体を破壊しようというのでない、目に見えず触ることのできない“関係”を破壊することが問題なのである」「歴史の入り口に押し寄せた新しいものを明るみに出し、出現させるために古いものを破壊するのが破壊者＝創造者である」とも述べている。

「生活クラブ運動グループ」という社会運動が「破壊者＝創造者」の1つであることは論をまたないが、岩根邦雄氏をリーダーにして1965年に突然生まれたのではなく、その前史があり重要であることを無視したり軽視してはならないと思う。

私たちは1960年代のはじめに組織問題研究会という会で仲間になった。リーダーは藻谷小一郎氏でプレートの1人はグラムシ研究者の石堂清倫氏であった。日本社会党、総評傘下の労働組合、社会主義青年同盟の活動家、学生運動の構造改革派など大勢の活動家たちが集い、1960年安保闘争への真剣な反省と総括がなされた。伊豆や箱根で幾度か合宿も行い、その中から、組織論、認識論、政策論について全面的な自己革新の必要が論じられたのだ。

横田克巳さんには沢山の本や講演録があり、多くの場合に次の3点が主著とされている。

『オルタナティブ市民社会宣言』（現代の理論社、1989年）

『参加型市民社会論』（現代の理論社、1992年）

『愚かな国の、しなやか市民—女性たちが拓いた多様な挑戦』（ほんの木、2002年）

私はこれに加えて『市民セクターをつくるIV—ポスト資本制システムのセクターバランス』（参加型システム研究所、2004年）を加えたい。「資本主義システム」を破壊するためには「市民セクター・システム」を創造しなければならず、運動のあり方は日本の社会運動の悪しき体質である「請負型」から「参加型」へと転換し、「国家・公的セクター」や「営利企業・私的セクター」を牽制できる「市民セクター」をつくり強化してゆくことが肝要であることを論じた本である。横田さんらしくないというかオランダやドイツ、フランス、スコットランド等の社会運動の運動事例の多くを提示して、なかなか説得力のある本だ。

今日、私たちが取り組んでいる、グローバル社会的経済フォーラム（GSEF=ジーセフ）は、韓国の故・朴元淳元ソウル市長が提唱したものだが、彼は横田さんが事務局長をしていたWE21 ジャパンを4回も訪れた。いま韓国で全国的に展開しているリサイクルショップ「美しい店」の参考にし、横田さんの『愚かな国の、しなやか市民』を韓国語に翻訳・出版してソウルでシンポジウムを開いています。今や2人とも故人となったが、「ヨコタ語」は未永く語り継がれるだろうと思っている。

（まるやま しげき）